

震災がれき、東京に到着

広域処理 第1号 放射線量を測定、公表

東日本大震災で発生した岩手県宮古市のがれきが3日朝、貨物列車でJRの東京貨物ターミナル駅（東京都品川区）に到着、都内で処理作業が始まった。

岩手県内のがれきを東北

地方以外で受け入れたのは初めて。震災がれきの広域処理第1号で、受け入れが全国に広がるかどうかの試金石となる。

入、2013年度までに岩手、宮城両県のがれき計50万トを処理する方針。午前8時すぎ、がれきが入った7ト積みコンテナ3個を同駅で列車からトラックに積み替え、大田区など



東京都大田区の破碎施設に到着した岩手県宮古市のがれき＝3日午前

の破碎施設に移送。施設では、計量後に作業員が重機や手作業で金属や木材を選別。木くずや毛布の中に、ぬいぐるみも混じっていた。

3日はこの3個を含む計6個のコンテナが三つの破碎施設に運ばれた。可燃物は江東区の焼却施設で数日後から処理を始め、焼却灰と不燃物は都の廃棄物埋め立て処分場に運ぶ。放射性

物質に対する都民の不安に施設の敷地境界で空間放射とも月に1回、破碎後の廃棄物に配し、都は週1回、破碎線量を測定。さらに少なく、棄物の放射線量や焼却灰、

排ガスの放射性物質濃度を測定して公表する。3日、大田区の施設で破碎後の放射線量を測定した結果、線量は検出されなかった。

破碎施設と焼却施設、埋め立て処分場はいずれも東京湾に面する工業地帯にある。がれき受け入れをめぐる都には反対意見が寄せられたが、周辺で混乱はなかった。